

タバコの正体



札幌市 HP「消防科学研究所」サイトから

タバコは人体に有害である事はくり返し伝えてきましたが、その被害が及ぶのは人体だけではない事を知っているでしょうか。

タバコは火をつけなければ煙がでない事を忘れてはいけません。つまり、喫煙中の灰の処理をはじめ、吸い終わった後の消火は確実にしなければ火災の原因になるのです。タバコの火の始末が大きな被害をもたらす事を十分認識しておかなければなりません。

タバコの火は赤くなっていますが炎は出ていません。しかし、左のスライドを見てください。完全に消化しないタバコを布団の上に放置すると(1)、30分経過しても炎はでません(2)。ところが、タバコの中心部は800℃近くもあるので燃焼(炎が出ない無炎燃焼)はゆっくりと進んでいます。そして、空気の流入など条件が整うと炎を上げて燃え始めます(3)。この炎は水をかけると消火することはできますが(4)・(5)、見た目の炎は消化できても内部では無炎燃焼が続いているので、30分後には再び炎を上げて燃え始めます(6)。

いかがでしょうか。タバコの火の始末を怠ると、1～2時間も経過してから炎を上げて燃え始める場合があります。怖いですよ。

タバコの火は消したつもりでも完全に消火できていないことがあります。そんな吸殻を安易にゴミ箱に捨てたり放置したりすると、大惨事を招く可能性があります。タバコによる火災を防ぐために、喫煙者には火が確実に消えた事を確認する習慣を身につけておいて欲しいと思います。でも、年がら年じゅうタバコを吸い続けると「つい、うっかり」という場合も起こりえます。

だから、体に有害で火事の原因にもなるタバコは、そもそも吸い始めないことが大切です。

産業デザイン科 奥田 恭久